

## BOTEROとは何ですか イタリア

2023年9月14日の読売新聞にフェルナンド・ボテロ死去のニュースが掲載された。

記事を目にしながらかつ過ぎた日を懐かしく思い出している。2016年、2017年と2年続けてローマ市内でアパート暮らしをしたときのことである。

ローマの市内をぶらぶら歩いていると、派手なピンク色をバックに愛嬌のある顔をした、はちきれんばかりに太った女性のヌードポスターをそこここで見かけたのである。



店先を飾るボテロのポスター

ポスターには“BOTERO”と大書してある。店先に貼ってあったり、時には同じ絵柄の垂れ幕が、はたはたと風にたなびいていたりした。ある時目抜き通りにある女性の下着売り店のショーウィンドウにこのポスターが麗々しく飾られていたのを見て、これはひょっとすると肥満女性の下着の宣伝かなと思ってみたり、あれこれと想像を巡らした。

幾度もポスターを目にするうちに、これは一体何なのか？ BOTEROとは何を意味するのか気になりだした。語学に疎いので、もち歩いていたイタリア語辞典を引いてみたが出てこない。とうとうわからず仕舞のままに帰国してしまった。

ボテロとは画家の名前であることが判ったのは、帰国してしばらく経ってからである。

ローマでは手あたり次第写真を撮りまくった。デジカメの気安さ故、絶え間なくシャッターを押し、1か月で5千枚も写していたので、当然ポスターの写真も何枚か写しこんでいた。

イタリア通の知人にポスターの写真を見せ、BOTEROとはどんな意味かと尋ねると、彼は即座にBOTEROとは南米の名高い画家の名前だよ。知らないのか？と小鼻をうごめかした。

そうか画家の名前なのかと、俄かに興味を掻き立てられ調べてみる気になった。

フェルナンド・ボテロ（1932年4月9日～2023年9月15日）はコロンビア出身の画家・彫刻家である。故郷コロンビアを離れヨーロッパで絵画を学び、その後アメリカに渡りニューヨークを拠点として活動した。晩年はモナコで過ごしたが2023年9月5日同地にて他界する。



ローマの店先に並ぶボテロの絵画

ボテロの画風は極めて特徴的で人物ばかりでなく動物など、描く対象物すべてをふっくらと描く独特の作風である。ボテロを一躍有名にしたのはニューヨークの近代美術館に展示された、レオナルド・ダ・ヴィンチのモナ・リザを題材にした「12歳のモナ・リザ」である。ボテロは南米のピカソとも称され親しまれているコロンビアが誇る芸術家である。2022年には東京・名古屋・京都で「ボテロ展」を開催している。

ボテロの絵を見るとなんだか、ほっこり

りする。人も動物も何もかもがふっくら豊かな雰囲気漂わせ描かれているのである。絵を見てみると人々に親しまれていた理由がよく判った。

余談ながら読売新聞のボテロの死亡記事に掲載されている顔写真を見て、一瞬日本でもお馴染みのケンタッキーフライドチキンの創業者、カーネルサンダースが亡くなったのかと錯覚した。それほど顔が似ていたのだ。ところでこの先どのくらい寿命があるのか不明だが、チャンスがあれば南米コロンビアへ行ってボテロの故郷を訪ねてみたいものである。